音楽学部 人文学部／人間発達学部	2021年度推薦入試問題　国　語	●時間／40分 ●配点／100点（音楽学部推薦） 550点（音楽学部奨学生推薦） 500点（人文学部） 600点（人間発達学部）

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で本文の意味段落に1、2の番号を付してある。

1　読書をすること、あるいは学問をすることの意味とは何なのだろうか。一般には、これまで知らなかった知識を得ることという答えが返ってきそうだが、読書の〈意味〉、学問の〈意味〉というものを考えたとき、その答えだけでは十分ではないだろうと私は考えている。[1]

読書によって、あるいは学ぶということによって、確かに新しい知識が自分のものとなる。〔　A　〕読書や学問をすることの〈意味〉は、端的[a]に言って、自分がそれまで何も知らない存在であったことを初めて知る、そこに〈意味〉があるのだと思う。ある知識を得ることは、そんな知識も持っていなかった〈私〉を新たに発見することなのだ。

私[注]一人の身体のなかに地球15周分もの細胞が詰まっていると知ることは、そんなにすごい存在だったのかと感動することは、そんなことも知らない自分であったということを、改めて知ることからくる感動なのだ。初めから何でも知っていたら、感動などは生まれない。「知らない存在としての自分を知る」こと、学問はそこから出発する。

自分の知っていることは世界のほんの一部にしか過ぎないのだと自覚する、それは〔　B　〕自分という存在の相対化ということである。それを自覚しないあいだは、自分が絶対だと思いがちである。自分だけしか見えていない。世界は自分のために回っているような錯覚を持つ。

自分は〈まだ〉何も知らない存在なのだと知ることによって、相手と自分との関係も見えてくるだろうし、世界のなかでの自分が存在することの意味も考えることになるだろう。私は〈まだ〉何も知らないと自覚することは、いまから世界を見ることができるということでもある。それが学問のモチベーション[b]になり、①力になる。

「何も知らない自分」を知らないで、ただ日常を普通に生きていることに満足、充足しているところからは、敢[あ]えてしんどい作業を伴う学問、研究などへの興味もモチベーションも生まれないのは当然である。〔　C　〕、ああ、自分は実は世界のほんのちっぽけな一部しかこれまで見てこなかった、知っていなかったと実感できれば、そして自分がこれまで知らなかった世界がいかにキョウイ[1]に満ち、知る喜びにあふれていることをかいま見る[c]ことができれば、おのずから[2]知ることに対する敬意、リスペクトの思いにつながるはずである。

こんなちっぽけな私の身体のなかには、地球15周分もの細胞が詰まっているのだという驚きと感動、その驚きは必ず自分という存在を見る目に変更を迫るはずである。自分という存在をソンゲン[2]の思いとともに見ることのできる基盤ができることでもあるが、いっぽうで、このまま何も知らずに人生を漫然と送っていては、こんな喜びに出会えないだけでも大きな損だろうと思えれば、シメタものである。

2　わが家に小さな子どもがやってきた。まだ一歳にもならない女の子である。世の中では孫と呼ぶらしいが、それが可愛いのである。

見ているといくつも発見がある。自分の子のときには見えていなかったことばかりである。彼女は世界の中心にいる。②説のようなもので、自分では何もしなくても、すべてが彼女のまわりをまわっている。世界を所有し、世界は包んではくれても、対峙[たいじ]することはない。

保育園や幼稚園に行くようになって、同じような年齢層の〈他者〉に初めて出会うことになる。ここで〈他者〉を知ることが、すなわち自分という存在を意識する最初の経験となるのだろう。世界は自分のためだけにまわっているのではないことを初めて知る。

〈他者〉を知ることによって初めて〈自己〉というものへの意識が芽生える。「自我のめばえ」は、〈他者〉によって意識される〈自己〉への視線である。自分を外から見るという経験、これはすなわち学ぶということの最初の経験なのである。

先に述べたように、読書をするということは、「こんなことも知らなかった自分」を発見すること、すなわち自分を客観的に眺めることである。〈自己〉の［　③　］化であると言ってもいい。

こんなことを考えている人がいたのかと思う。こんなひたすらな愛があったのか、こんな辛い別れがあるのかと、小説に涙ぐむ。それらは「読む」という行為の以前には、知らなかった世界ばかりである。それを知るということは、すなわち「それを知らなかった自分」を知るということである。一冊の書物を読めば、その分、自分を見る新しい視線が自分のなかに生まれる。〈自己〉の［　③　］化とはそういうことである。

勉強をするのは、そのためである。読書にしても、勉強にしても、それは知識を広げるということも確かにその通りだが、もっと大切なことは、自分を客観的に眺めるための、新しい場所を獲得するという意味のほうが大きい。小さな子が他者と出会って初めて自分に気づいたように、私たちは〈自己〉をいろいろな角度から見るための、複数の視線を得るために、勉強をし、読書をする。それを欠くと、ひとりよがりの自分を抜け出すことができない。〈他者〉との［　④　］性を築くことができない。

勉強や読書は、自分では持ち得ない〈他の時間〉を持つということでもある。過去の多くの時間に出会うということでもある。過去の時間を所有する、それもまた、自分だけでは持ちえなかった自分への視線を得ることでもあるだろう。そんな風にして、それぞれの個人は[3]世界と向き合うための基盤を作ってゆく。

（永田和宏『知の体力』による。一部改変）

注　私一人の身体のなかに地球15周分もの細胞が詰まっている……筆者はこの前の文章で、一人の人間のなかにある細胞の個数は60兆個であり、その細胞を一列に並べたら地球15周分になると述べている。

問一　二重傍線部1、2のカタカナを漢字で書いたとき、同じ漢字を使うものをア～オから選び、符号で答えなさい。

1　キョウイ

ア　相手の弱みを握ってキョウハクする。
イ　余計なことを言ってフキョウを買う。
ウ　介護施設をキョウドウで経営する。
エ　単純なミスがトラブルのゲンキョウと言われる。
オ　新曲の素晴らしさにキョウタンする。

2　ソンゲン

ア　クレームが続き、我慢のゲンカイだ。
イ　野球選手がゲンエキを引退する。
ウ　甘えを許さないゲンカクな態度で接する。
エ　うやむやにならないよう、ゲンチを取る。
オ　収支が合うように経費をサクゲンする。

問二　空欄〔A〕～〔C〕に入る語をア～オから一つ選び、符号で答えなさい。同じ符号を複数回選択してもよい。

ア　すなわち　　イ　あるいは　　ウ　しかし　　エ　なぜなら　　オ　ところで

問三　波線部a～cの意味をそれぞれア～オから一つ選び、符号で答えなさい。

a　端的に

ア　詳しく　　イ　少しだけ　　ウ　大まかに　　エ　はっきり　　オ　遠回しに

b　モチベーション

ア　反応　　イ　期待　　ウ　意欲　　エ　要求　　オ　発見

c　かいま見る

ア　あおぎみる　　イ　ぬすみみる　　ウ　かえりみる　　エ　のぞきみる　　オ　かんがみる

問四　空欄 ① ・ ② に入る語をア～カから一つ選び、符号で答えなさい。符号は一度だけ選択すること。

ア　反動　　イ　扇動　　ウ　天動　　エ　他動　　オ　駆動　　カ　地動

問五　空欄 ③ ・ ④ に入る語を 1 の段落から探し、漢字二字で書きなさい。

問六　傍線部1「その答えだけでは十分ではないだろう」とあるが、筆者がそのように思うのはなぜか。その理由として、最も適当なものをア～オから一つ選び、符号で答えなさい。

ア　読書や学問によって、それまで知らなかったことを知ることで、自分に役立つ知識を蓄積していくことができるから。

イ　読書や学問によって、新たな知識を身につけると、何も知らなかったときよりも自分に自信が持てるようになるから。

ウ　読書や学問によって、自分には知らないことがあったことを知ることで、新しい自分を発見することができるから。

エ　読書や学問によって、知っていることが増えていくと、その中から有益な情報を選ぶことができるようになるから。

オ　読書や学問によって、自分の知らないことが無くなっていくことで、自分の存在が確固たるものになっていくから。

問七　傍線部2「おのずから知ることに対する敬意、リスペクトの思いにつながる」に関係する説明として最も適当なものをア～オから選び、符号で答えなさい。

ア　みずから進んで労力のいる学問や研究に挑戦し、困難を乗り越えていくことで達成感が得られる。

イ　読書や学問によって知識が増えると、それまでの自分が無欲であったことに気づき驚きを感じる。

ウ　自分が存在することの意味がわかると、自分の世界が広がっていくような解放感を得られる。

エ　自分には知らないことがあることに気づくと、未知なる世界が見えてくることに感動を覚える。

オ　疑問や不満を抱くことなく、日々の生活を当たり前に送れていることに気づき喜びを感じる。

問八　傍線部3「世界と向き合うための基盤を作ってゆく」とはどういうことか。次の文はそれを説明したものである。〔　　〕内を本文中の記述を用いて十五字以内で書きなさい。

勉強や読書によって、〔　　〕こと。

問九　筆者が考える「勉強」「学問」「研究」「読書」と同じような効果をもたらすものを、本文中より漢字二字で探して書きなさい。

二　次の問いに答えなさい。

問一　①～⑫の傍線部の読みをひらがなで書きなさい。

① 彼は卒業後の抱負を語ってくれた。
② 母は昨日から機嫌が悪い。
③ 豊臣秀吉は人心を掌握するのが巧みだった。
④ 世の中を騒がせていた窃盗団が逮捕された。
⑤ あまりに繊細な神経では暮らしていけない。
⑥ 活字の鋳造は幕末に始まった。
⑦ 法案は慎重な審議が望まれる。
⑧ 失言によって大臣が更迭された。
⑨ 荷重の超過で大事故が起こった。
⑩ 古典が味読できるようになりたい。
⑪ 会社の不正が暴かれた。
⑫ 時間を自由に操ることはできない。

問二　①～⑥の□に入る漢字をア～ソの中から選び、符号で答えなさい。

一石［①］鳥　一挙［②］得　青天［③］日　白砂［④］松　山紫［⑤］明　一進［⑥］退

ア 暗　イ 一　ウ 海　エ 山　オ 水　カ 青　キ 赤　ク 千
ケ 谷　コ 二　サ 白　シ 万　ス 明　セ 両　ソ 十